

市さんの大豆「リュウホウ」が3年連続で秋田県知事賞を受賞するなど、管内農産物の品質に高い評価が寄せられました。厳しい気象条件のなか、卓越した栽培技術をもって努力を重ねる管内生産者の姿に、感銘を受けた次第でございます。

男鹿地区営農フェアは、香西かおりさんなどをお招きして、4年ぶりに規模を戻して開催することができました。コロナ禍が落ち着き、組合員の皆様がJ Aのイベントを楽しみ、姿やJ A職員とふれあう姿を再び見られましたことは、地域に根ざしたJ Aを目指す我々にとつてうれしい限りです。また、秋田商工会議所において、管内の量販店や飲食業者などに当J Aの地場産品の消費拡大にかかる取り組みを紹介し、地産地消の重要性をお伝えすることができました。多くの方々との接点づくりを進め、消費者や実需者などに対する農業現場の現状や適正な価格形成への理解醸成を、今後も継続いたします。

世界は、ウクライナ情勢に加えて中東での軍事衝突などの不安定な状態が続いており、食料や肥料、燃料などを海外からの輸入に依存している日本では、安価かつ安定的に輸入できる状況が崩れると、食料安全保障が危機

に陥るおそれがあります。政府は「食料・農業・農村基本法」の制定以来初となる改正や関連施策の具体化に向けた検討を進めており、J Aグループでは国内の生産基盤の強化に向けた農業政策の拡充を要請しています。農業をめぐる状況が厳しさを増すなか、当J Aは生産者と消費者とをつなぐ役割を全うし、食料の安定供給に貢献してまいります。

当J Aは皆様からのお力添えのもと、昨年4月に合併から5周年を迎えました。6年目を以降も組合員の皆様との対話を重ねながら、総合サービスを通して農業と地域社会の振興に努める所存です。

結びに、本年も引き続き当J Aと管内農業へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の一層のご多幸とご健勝をお祈り申しあげ、新年のご挨拶とさせていただきます。



監事

鈴木卓見	堀井喜一	鈴木仁司	三浦猛	小野甚左衛門	佐々木早苗	石川美恵子	保坂昭弘	安田堅悦	荻原豊	角崎裕継	堀川多希志	斉藤二男	佐藤樹	佐藤靖	丸谷卓弥
櫻庭龍一	古木稔裕	鈴木千柄	佐藤公誠												

職員一同